

当季雑詠

絵手紙の春色載せて届く午後

田中 君子

信濃路や振り向けば山みな笑ふ

森山 明

春の雷紅茶に落とすひとり言

高宮 澄子

^は食む^{う ど}独活^{はつ}の僅かな苦み季のめぐり

安田 彰

五七五を詠みし湯舟のおぼろ月

森木 茂子